



師技崎尾たし朝歸

お伽噺の國は 和製づくめ

アフガニスタン土産

【横濱電】七日未明ウヅベクから招喚された農務政策の指導者たる尾崎三雄氏が、昭和三十九年アフガニスタン政府から歸朝した、船中同氏が語る土産話

主に向ふの農學校の卒業生を指導したのですが皆眞面目に研究してゐました、事變迄は非常に親日的で心持のよい生活が出来たが事變後はソ聯、英に還歸する意味が少し變なこともありましたが、然し困るとか不愉快とかいつた程度ではありませんでした、同國の農業はまだ極めて幼稚ですがアフガニスタンは世界における粟の産地といはれる土地でその他メロン、葡萄、稻、蜜等おいしい果實もあります、將來なかり有望です、異地への旅行は駱駝の背に揺られて出かけるのですが沙漠やペールを渡つた婦人等々、お伽噺の國でもあります、どんな異地に行つても彼等の生活日用品の八〇パーセントまでは日本品によつて占められてゐるので日本品なしでは大衆は生活が出来ぬと申しても過言ではありません、日本との面取引ではなく、印度商人を仲介して購入してゐる様子ですが英國品の十分の一といつた値で商戦にも決してひけをとらぬと思ひました、併し中には日本人が見ても恥しい様な品物が見られるのは困つたことです

1939年2月8日
東京朝日新聞



神祕の國の土産話

【横濱電】アフガニスタン政府の招喚で四年間同國の農務行政及び農務生指導に當つてゐた農林技師尾崎三雄氏が七日未明横濱入港の

郵船日枝丸で歸朝、その土産話、同國の産業は遊牧から農牧に轉じたばかりの幼稚さが世界一の多種類の小麥をはじめメロン、ぶどう、りんご等は正に絶品です、酒と女の見られない國

未だにアラビヤナイトの神祕な帳に包まれた風俗ですが、一般民衆は大へんな日本品で、日用品雜貨類の八割は日本品、駱駝に乗つて草を掻き分け行く片田舎にさへ日本品が見られる、しかし英國とロシアの眼が光つてゐるため政府は極力支配階級はその手前非常には儲かつてゐるやうです、なほ同國にゐる日本人は私と一緒に招かれた技師、先生等八人と公使館員を加へて廿名足らずです、(寫眞は尾崎氏「横濱にて」)

1939年2月8日
東京日日新聞